

※本作品はラブストーリー小説全文を二次創作百合漫画・

# チベツト純情

十五禁

十八禁

内山文子原作



# 序文

本書は小説版バトルアスリーテス大運動会を原作とした二次創作同人誌です。

西暦5001年の大運動会敗退後、行方をくらまし生まれ故郷であるチベットの農村に隠り立ったラーリ。

自分の世界の全てであるラーリを追って、はるばるチベットまでやってきたミランダ。

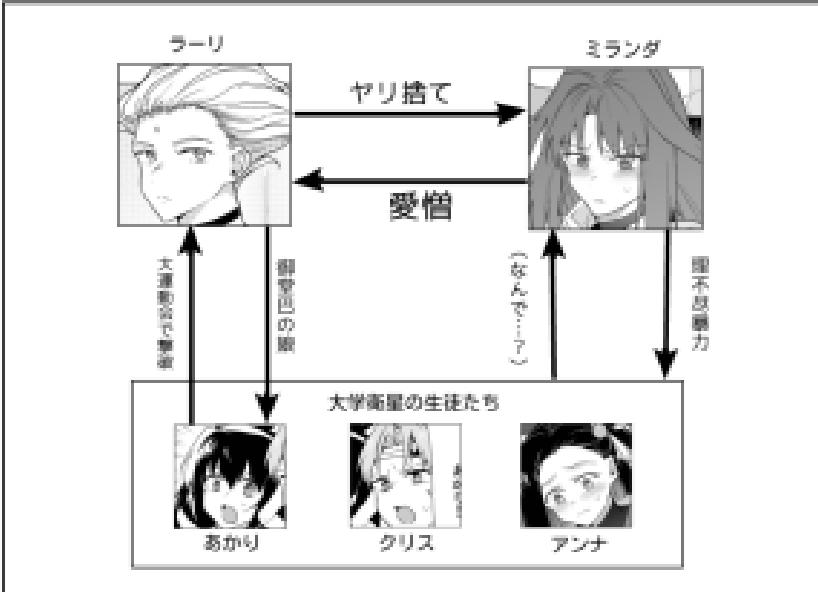
かつてチームメイトとして苦楽を共にした二人はある夜に肉の空わりを結ぶのだったが、果たしてそれはラーリがミランダの身体能力の限界を知るための吝嗇なヤリ捨て行為であった。

愛する女から裏切られたと感じたミランダはラーリに復讐を誓い今日にいたるのだったが、そうせざるを得ないところまで追い込まれていた「あの夜」当時のラーリの遭遇が、家名のために優れた業績を強要されていた自分に近しいものであったと知ってしまう。

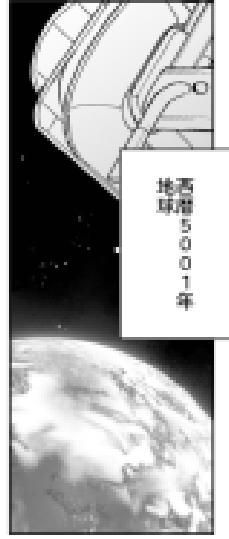
ラーリが世に消滅し、歴史に名を刻むことこそが、「あの夜」に事故死したと告げられた彼女の実の家庭の悲願だったのだ。

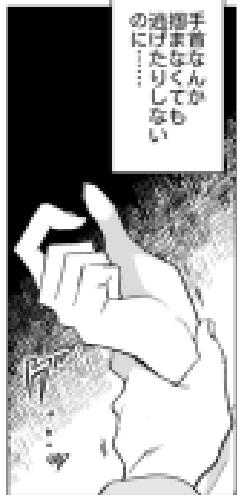
チベットの高山上に乾いた風が吹きすさぶ中、ラーリはかつて傷つけたミランダの復讐を受け入れるも、ミランダは振り上げた拳を下ろすことができます。  
ただ風が二人の喉嚨をさらっていったのだった……。

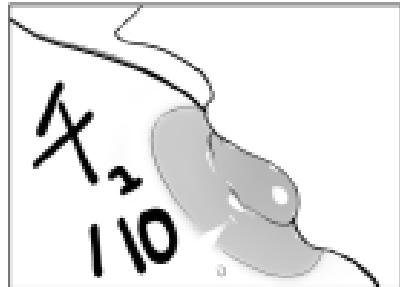
## 相関図



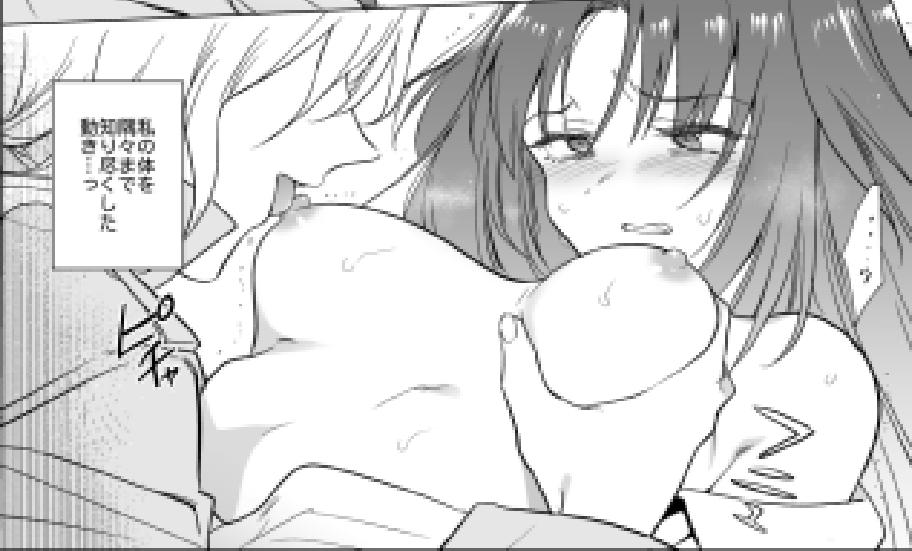
……なんでSEXしてるんですか！？ 我い！！！！！

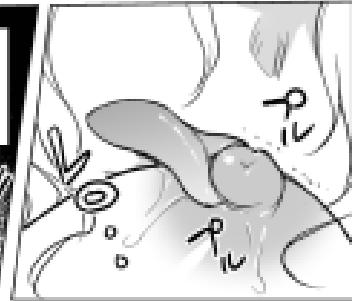
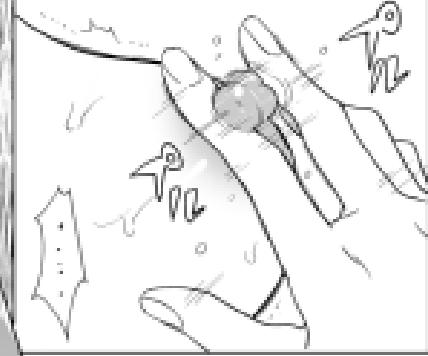
















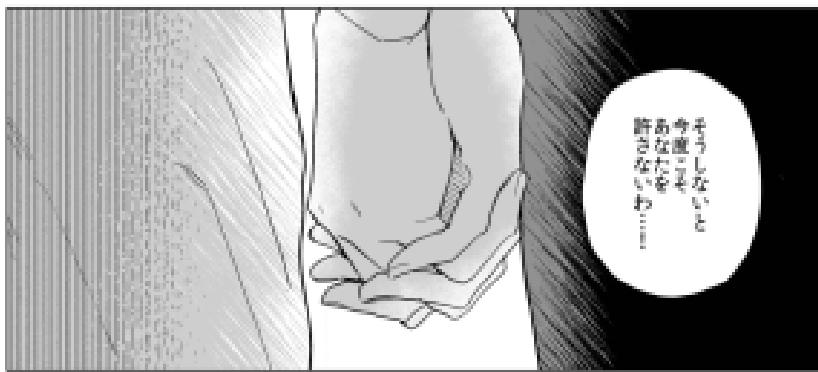












Fin.

## BONUS TRACK



# 跋文

ここまでお読みいただきありがとうございます。

原作の小説・バトルアスリーテス大運動会(著・金田英之)において、

ミランダにとってラーリーがそれまでの自分の人生を一変させた特別な存在であることは  
明言されているんですが、じゃあラーリーにとってミランダはどういう存在だったのか?  
ということが本作のテーマの一つでした。

「あの夜」以来、歴史に名を残す存在になるという生まれ故郷の家族の悲願を果たすために  
ラーリーは全てを賣りし。大事な友人だったはずのミランダさえも切り捨てた。  
彼女にとて、愛媛最後の大運動会で敗れて御座間を越えるという自慢が出来てしまった時に  
あかりがかけた言葉は少なからず怖いとなったんじゃないかなと思うんですよね。

そもそも純粋に競技を楽しんでいた頃のラーリーがあかりの母である御座間に憧れたのは、  
彼女の走りが記録以上に人の記憶に強く刻まれるものだったからでした。

ラーリーもまたそんな走りをしたいと願い、ミランダは憧れを語るラーリーのきらめく瞳が好きだった。

ところが「あの夜」に生じた歴史に名を刻むという使命のためにラーリーはミランダを傷つけてしまう。  
それなのにミランダはラーリー自身が覚えてもらいたいことと見ぬかも記憶していくってくれて、  
敵にも向むき合げずに地図にない土地に行方をくらませた自分が見つけてくれた……  
他の誰が彼女のことを忘れてしまうとしてもミランダだけは絶対に忘れない。

このことはラーリーにとって最大の怖いになりえたのではないかでしょうか。

かつて「あの夜」にミランダはラーリーの特別な存在になるために身を捧げ、  
ラーリーはミランダを特別ではないただの肉体にするために性交渉に及んだのだったが、  
それから4年を経たチベットの農村で初めてラーリーにどっても  
ミランダが特別な存在なのだと実感されたのではないだろうか…?

結果的にミランダはラーリーのために自分の全てを捧げてくれたから、

ラーリーは自分の存在をその身に心に刻んでくれるミランダのために

残りの自分の人生を捧げてくれるるんじゃないかなあ。

どのみちミランダはラーリーなしではいられないから宇宙のどこまでも這ってくるだろうしなあ。

その後の二人は地球のどこか辺鄙な土地にあるヴァルター家の別荘(先祖由来の屋敷だが  
立地の悪さから二階の種も地図を見出さなかつたためミランダ名義で所有している)で  
共に暮らして公式の記録には残らない二人の記憶だけに刻まれる腹角をしたりして  
静かにイチャイチャしながら過ごしているという妄想を繰り広げています。

近隣の住民の間では昔の貴族の屋敷のそばの森で光の魔を引きながら高速で走る  
二人の駆駄太様の姿が日暮されており、土地の民間伝承として語り継がれているという…。

年に一度は二人でラーリーの生まれ故郷のチベットの農村に立ち寄り、  
すでに亡き生みの家族への手回けとしてミランダの髪と同じ色の青い花々を地面に撒き散らし、  
今の自分が誰と共にいるかを示している。  
やがてその花は土に還り土地と同化する。  
そして次の年にまた二人で訪れて新しく花を撒く。  
そんなふうにしてチベットの季節は繰り返していくだろう。

ロマンティック・オタク・ボエム・完-

Lyric by ときわゆだか

…それにしても一度SEXした夜にラーリーが思ってた裏表を4年もの間ずっと覚えていて  
その記憶を繰りに地図に載ってないチベットの農村まで追跡してくるの、恐怖である。

なんでここがわかった…?って尋ねてそんな答えが返ってきたラーリーはどんな心境だったんだ。  
いや敷いになったんだろうとは…思ふんだけど…  
ミランダ・アーカー・ヴァルター先輩、なんていじらしくも恐ろしい女なんだ…。

なんてまた  
小説版バトルアドベンチ  
大運動会(入場券)の  
百人同心(ほんじゆうじゆう)  
なんへいらニ...? なものを...?

性欲に拘るこてか  
できなかた...

夏が、そうさせる...

チベット純情

2023/08/13  
COMIC MARKET102

印刷：株式会社Bro's様

TETRARA/ときわゆたか  
sengeki2012@gmail.com

無断転載・違法アップロード・  
ネットオークション等への出品を禁じます。

国語のヨーロッパ、追求、チベット高山地帯。

泣きな環境下でやめられぬのは……

かのセーラー服を纏った黒髪の女と女  
宇宙で誰も知らない新星に二人きり……



# チベット純情

原作・小説版バトルアスリーテス大運動会

TETRARA 配給